【37】横利根閘門

利根川下流部で千葉県佐原市（現、香取市）の対岸に利根川本川と霞ケ浦からの排水河川である常陸川とを結ぶ横利根川という小さい河川があります。明治改修で利根川への横利根川の出口に、横利根閘門という立派なレンガ造鋼門扉の西洋式の閘門が設けられました。実に立派なもので 100 年以上経った現在でもその機能を果たしています。

この地域は冬期の寒鮒（かんぶな）釣りが盛んで、厳冬の寒いときでも、朝まだ暗いうちから釣り舟が釣り場へ向います。今から半世紀以上前のことですが、横利根川閘門の番人（当時、建設省の職員）が閘門を通る釣り舟からワイロを貰っていると新聞のニュースになったことがありました。実際のところは、閘門を早く通って横利根川の良い釣り場を占めたいと、早朝といっても殆んど真夜中に水門番を叩き起こして門扉を手動で開閉させるので、申し訳ないとチップを渡していたというものでした。

しかし、事が大げさになるとやはり不適切ですから、人手を煩わせないように門扉を電動化し、開閉ボタンを釣り舟から直接操作できるシステムに改めました。その後、利根川本川の下流に利根川河口堰が建設され、河川の水位が一定化され洪水時以外は門扉操作の必要性が無くなりました。それにしても昔はのどかだったのだなと想い出しては苦笑します。